

築川ダムは本当に 必要なんだろうか？

築川のダムと自然を考える市民ネットワーク

考え直そう、築川ダムを！

盛岡を流れる河川で、ただ一つ残されたダムのない川 築川、根田茂川。ここに今、県営築川ダムが建設されようとしています。

今から25年前(1978年)に予備調査を行い、1992年に事業採択されたダム建設計画。その後、水道や農業のための水需要は当初計画を大きく下回り、洪水対策の考え方も転換しつつあります。時代は、「脱ダム」へと向かおうとしています。

1997年から建設工事が始められましたが、現在は、まだ水没予定道路(国道106号、県道盛岡大迫東和線)の付け替え工事だけで、**ダム本体工事はまだ始まっていません。今ならまだ間に合います。**

私たちは、このまま工事を継続するのではなく、一度立ち止まってみて、「築川ダムが本当に必要かどうか」真剣に考え直すことを求めます。



【築川流域の渓流と生き物たち】



築川ダム概要

事業費 670 億円（当初計画 340 億円） 2012 年度完成予定

* 2001 年度に行った見直しの結果、事業費は約 2 倍に膨らんだ。

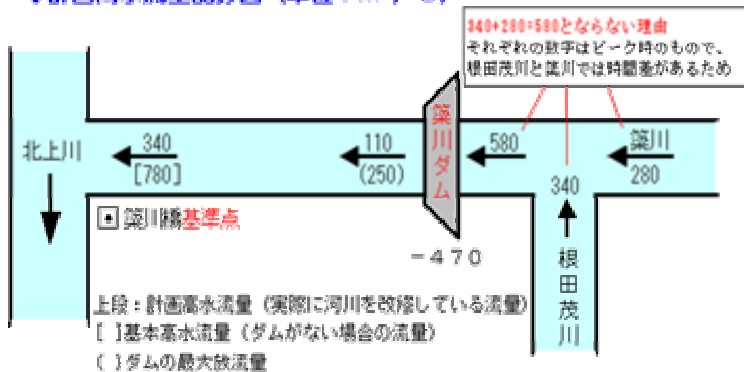
ダム の 諸 元	型 式	重力式コンクリートダム	治水安全度	1/100	
	堤 高	86.0 m	計 画 降 雨	210 mm/2 日	
	堤 頂 長	308.0 m	基本高水流量	780 m ³ /s	
	堤 体 積	345,000 m ³	ダム地点 計画高水流量	580 m ³ /s	
貯水 池 の 諸 元	集 水 面 積	117.2 km ²	ダム地点 設計洪水流量	1,500 m ³ /s	
	湛 水 面 積	1.1 km ²	不特定かんがい	31.52 ha	
	総貯水容量	22,000,000 m ³	特定かんがい	547.0 ha	
	有効貯水容量	19,600,000 m ³	水道用水	36,000 m ³ /日	
	洪水調節容量	10,000,000 m ³	利 水 計 画	最大使用料	4.00 m ³ /s
	不特定容量	4,700,000 m ³		常時使用料	1.19 m ³ /s
	かんがい容量	1,100,000 m ³	電 力 計 画	最大出力	2,000 kw
	水道用水容量	3,800,000 m ³		常時出力	506 kw
			従属発電方式		

岩手県のホームページより

築川ダム建設の目的（岩手県の説明）

（ 1 ）治水（ダムによる洪水調節）

◆計画高水流量配分図（単位：m³/s）



100年に1回の確率の雨量に対応した治水計画とされている。

基本高水流量（洪水時の最大流量）を 780m³/秒とし、そのうち 470m³/秒をダムで止め、下流の最大流量を 340m³/秒に削減する計画。

ダムによる治水の経済効果（被害削減額）を、県は毎年約 40 億円と見積っている。

（ 2 ）利水

水道用水の供給（盛岡市 31,000m³/日、矢巾町 5,000m³/日）

農業灌漑用水（花巻市宮野目地区の農地に）

発電（岩手県企業局が 2,000kw の発電）

築川ダムは本当に必要か 解決されない疑問

1 洪水対策 = ダム建設 なのだろうか？

ダム建設は、築川・根田茂川の渓流と周辺地域を水没させ、自然と人間の環境を破壊します。できる限りダムによらない治水を検討すべきではないでしょうか？

ダムによる治水は万全でしょうか？

- ・人間が完全に河川をコントロールすることはできません。
- ・1/100 確率 (100 年に 1 回の洪水) に対応した治水計画を立てても、それを上回る洪水に対しては無力です。
- ・ダムをつくり、河川を閉じこめることによって、もともとは氾濫域だったところを都市化すれば、洪水が発生したときの被害を一層拡大することになります。
- ・川と人とがうまくつきあっていく方法を考えるべきではないでしょうか？

洪水被害額はダム計画の想定と実際に大きく違います。過大な想定ではないか？

ダム計画における想定被害額 39 億 6,100 万円/年

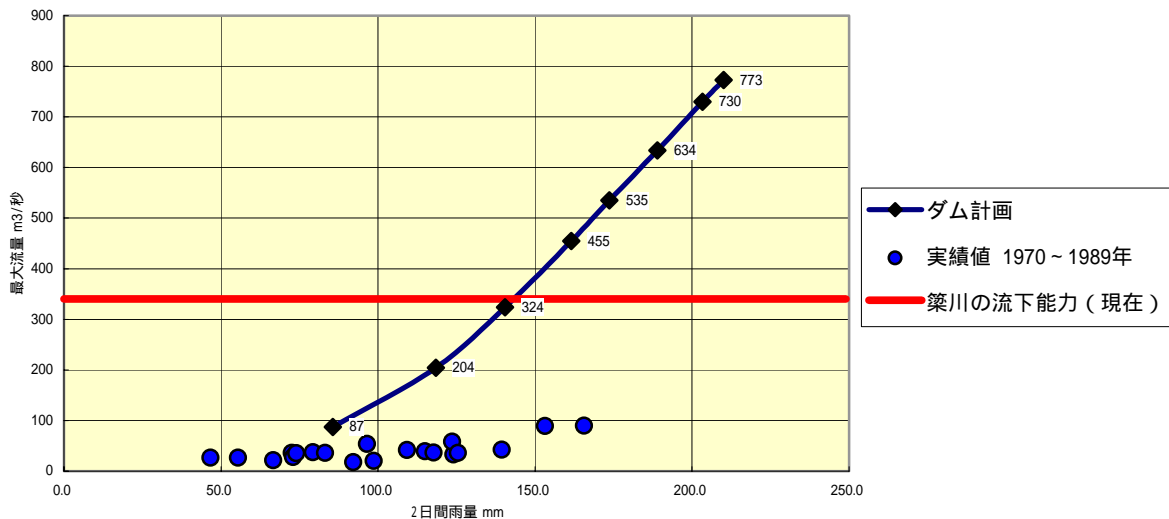
1975 年 ~ 2000 年の実際の被害額 3,800 万円/年

想定と実際では、約 100 倍の違いがあります。

築川ダム建設事業について県が行った再評価 (2001 年度) では、この想定被害額に基づいて費用対効果分析を行い、費用が便益を上回る (便益/費用 = 1.46) として事業継続の決定をしました。

基本高水流量 $780\text{m}^3/\text{秒}$ も過大な設定ではないか？

築川流域の雨量と最大流量の関係



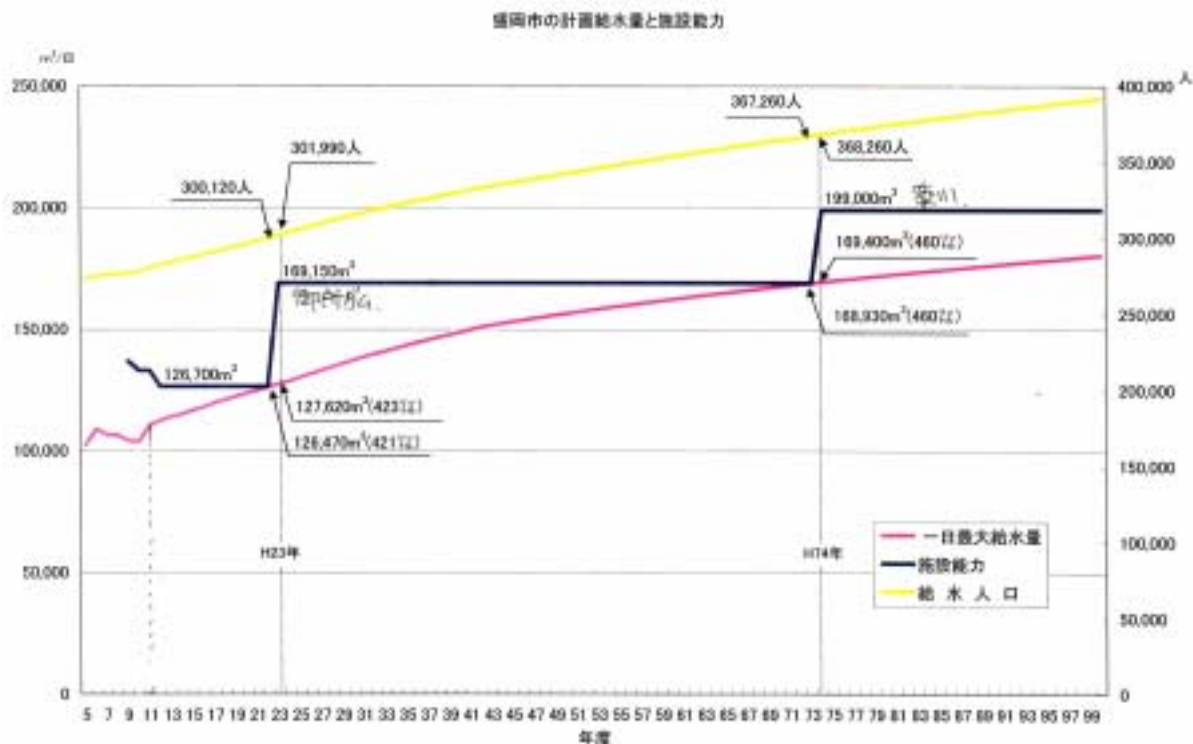
・想定被害額と実際の被害額が大きく乖離した原因の一つは、高水流量 (各降雨で生じる最大流量) の想定が過大な点にあるとも考えられます。上の図は、雨量と計画高水流量の関係 (折れ線) 及び雨量と実際の最大流量の関係を示しています。計画流量は実績を大きく上回っています。

ダムによらない治水の方法をもう一度検討してみよう！

・基本高水流量 780m^3 の再検討、治水安全度 1/100 の再検討、河川改修、地上げ、森林整備など、多様な可能性を探ってみても良いのではないのでしょうか？

2 水道用水や農業灌漑用水は本当に必要なのだろうか？

過大でムダな盛岡市の水需給計画



図：盛岡市が岩手県に提出した資料（平成 74 年度から築川ダムからの取水が必要だと主張している）

盛岡市の人口が平成 74 年度に 368,260 人になるというのは本当か？

・盛岡市の人口見通しは、過去 10 年間の実績を延長し、さらに開発によって期待される流入人口を加算したものだ。しかし、そんなに人口は増えるのだろうか？

社会保障・人口問題研究所の推計では人口減、過去の延長でもそんなに増えない

	平成 74 年度人口	注) 社会保障人口問題研究所「小地域人口推計システム」を用い推計した平成 77 年の人口。盛岡市の合計特殊出生率(2000 年現在 1.4065)が、平成 77 年も同じと仮定した場合は 172,872 人、2 に回復すると仮定した場合は 204,646 人となる。
盛岡市の人口見通し	368,260 人	
社会保障人口問題研究所推計	172,872 ~ 204,646 人	
過去 10 年間の実績の延長推計	341,378 人	

- ・社会保障人口問題研究所推計を採用すれば、築川ダムからの取水は永遠に必要なない。
- ・盛岡市と同じ 10 年間実績を延長して推計しても 74 年度には取水の必要はない。そのままさらに延長したとして、人口が 368,260 人に達するのは、平成 134 年度!

盛岡市が主張するとおり平成 74 年度から取水が必要になるとしても 60 年後

- ・そんな不確実な将来のために、今、自然を壊してまでダム建設を急ぐ必要はあるのでしょうか？
- ・本当に水が必要になるとわかった時に(たぶんそんなことはないでしょうが) 水道用にダムをつくった方が費用は安くすみます。

盛岡市の水道のために、今、築川ダムを建設することはムダです

<市民ネットワーク> ホームページ <http://yanagawanet.hp.infoseek.co.jp/>

事務局 外川 正 019-653-6480 sotokawa@ictnet.ne.jp